
リハビリテーション天草病院だより

2017年1月

No. 81



発行 埼玉県越谷市平方343-1 / (医) 敬愛会広報委員会

新年を迎えるに当たっての当院の抱負

医療法人敬愛会理事長 天草 大陸

皆様、新年明けましておめでとうございます。今年が当院が誕生して41歳になります。この間、ひたすらにリハビリ医療に取り組み少なからず社会に貢献してきたものと自負しております。どうか今年も皆様方のご指導、ご鞭撻を心からお願い申し上げます。

ところで、病院の増改築工事は順調に進み、

完成しますと、現在の154床から171床となり「お待たせしないで入院できる病院」に生まれ変わるものと思います。

今後もリハビリ病院のトップランナーとして走り続けます。常勤医師12名、非常勤医師9名を始め多職種が一丸となり下記事業を着実に実行して参ります。

・診療報酬上最上位のリハビリ病院の堅持充実	回復期リハビリ病棟入院料は診療報酬では3類型があり、最上位の1では2と比較しても施設基準は厳しく、例えば、人員配置（1では多職種を多数配置）、リハビリ介入（1では365日実施）、在宅等復帰率（1では70%、2では60%以上）等々で差がある。当院では1を堅持し、その内容充実で最大限努力する。
・治療成績結果評価＝実績指数「27」以上を獲得	直近の診療報酬改定で設けられたもので、リハビリの効果に関する実績が一定水準「27」（計算式は難解なので省略）に達しない場合、1日1患者あたり本来9単位（180分）まで認められる実施が実質6単位までとなる。出来るだけ短い入院期間に著しい改善を図るかが鍵となる。当院の現在の指数は「47.5」で好調。
・体制強化加算1算定の堅持充実	回復期リハビリ病棟入院料1を算定する病棟のみに認められる加算であり、各病棟に専従の医師や社会福祉士（専従とは、例えば、医師の場合は外来や他の病棟の患者を診ることはできない）を配置しなければならない。医師等の数が鍵。
・摂食機能療法の積極的実施の継続	脳卒中等の患者の後遺症として、意外に多いのが食事の摂取に関する悩みである。「飲み込みが悪い」、「水分摂取でむせる」等々の訴えである。医師、歯科医師、リハビリ（主に言語聴覚士）、看護、栄養士等がチームを組み鋭意実施中。
・経口摂取回復促進加算の算定継続	上記療養は、「口から食べることの楽しみ」を与え誤嚥性肺炎の防止が主目的であるが、口から食べることでできないチューブを使った「食事」を余儀なくされる患者を35%以上「経口」に改善させると算定できる報酬加算を継続する。
・退院支援加算1の届出準備	現時点では未算定であるが、「切れ目のない医療から介護」を促進していくためには、この算定は不可欠である。厳しい施設基準ではあるが当院では、あと1名の社会福祉士の採用で若干の余裕を持って対応可能となる。近々届出予定。
・訪問リハビリの強化	超高齢社会の到来で、国是として「在宅療養の推進」に舵を切ったことに対応するために「訪問リハビリ」も病院事業の主な柱とし積極的に対応。

肩甲骨体操の紹介

リハビリテーション天草病院 リハビリ部

肩甲骨は背中にあり腕の動きをサポートしています。他にも姿勢と直結したり、肩こりや、飲み込み動作とも関連します。

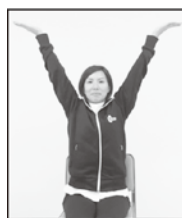
今回は、肩甲骨の動きをよくするための体操をご紹介します。肩に痛みのある方は無理のない範囲で行うようにして下さい。



③ウエイトレスのポーズのまま、頭を前後左右に1方向10秒ずつ傾けて、ストレッチしましょう。



①両腕をクロスさせた状態で手のひらを合わせ、そのまま上に上げます。どのくらい上がったか、突っ張るところはないかなどを確認しましょう。体操の後に再度確認します。



④手のひらを上に向けたまま頭上にもち上げ両手を合わせます。両手を合わせたまま、左右に1方向10秒ずつストレッチします。



②体操の基本姿勢をとります。ウエイトレスが両手にお盆を持っているような姿勢です。脇をしっかり締め、胸を開き、両手が天井を向くようにします。



②～④の体操が終わったら、①と同様に両手をクロスした状態で手のひらを合わせ、そのまま上に上げます。体操前と比べてより楽に上がりましたでしょうか？

肩甲骨は、様々な動作や姿勢に直結しています。是非、肩甲骨の動きを取り戻し、より健康的に過ごしましょう！

「大腿骨骨折で入院して」

春日部市 村上 蕃

去る5月19日、自転車で買い物に出るも道路に立っている電柱に激突。右腰を強く打ち立てなくなり救急車で秀和総合病院に運ばれ整形外科で5月23日、右腰3ヶ所ボルト締め固定の手術を受けました。右足が棒の様になり動かすことが出来なかった。手術翌日から車椅子でリハビリ室に行きリハビリ開始。腰の痛みがひどく、とても辛い日々でした。手術後15日目に秀和総合病院を退院し、6月7日にシルバーケア敬愛へ入所。夕方1日1回のリハビリを継続、16日目の6月22日に天草病院へ入院しました。入院して驚いたのは朝から1日4回もリハビリがあることでした。入院してすぐ整形外科の先生の腰部レントゲン撮影、血液検査実施。腰部手術痕は完全に復旧しているとの診断を頂き一先ず安心しました。入院した日からリハビリに移り入院3日目車椅子から歩行器に変わり、入院4日目から杖での歩行訓練、入院39日目から杖なしでの歩行訓練に移り大分歩けるようになりました。入院42日目担当医の回診後、入院病棟だけ杖での歩行を認められる。入院49日目リハビリの先生とタクシーで自宅に行き、ケアマネージャーと福祉用具会社の社員と4人で退院後の生活に必要な手すりの取り付けなど調査実施。翌日リハビリの先生に見て頂き専ら一人での着替え、入浴訓練を実施、54日目リハビリの先生とシルバーカーで外に出て杖と共に車道での歩行訓練実施、入院58日目看護師さんから8月31日に退院の許可が出たことを知らされました。初めての骨折で右足が動

かなくなり杖なしでも少し歩ける様になったことがとても嬉しくリハビリの先生方の熱心な指導にはとても感謝しております。又、看護師、介護士さん方の親切な対応を嬉しく思っております。入院中の食事でも減塩食と低カロリー食で高血圧症も正常になり有難く感じております。人間歩くことがこんなにも大変なことであるとは考えてもいなかったことです。退院後は自分で歩行訓練をする予定です。高齢者の大腿骨骨折の記録として参考にして頂ければ幸いです。我が国に於ても優秀なりハビリ専門の天草病院に入院できましたことを感謝しております。皆さん本当に有難うございました。

(投稿日 平成28年8月24日)

「あせらず、あきらめず」

越谷市 佐野 毅

私は、今から約2年前の平成26年9月にクモ膜下出血で倒れ、それを原因とする脳梗塞のため高次脳機能障害を負ってしまいました。そして、手術後の平成27年4月からリハビリテーション天草病院でリハビリを受けています。その際にある看護師の方から頂いた言葉で今も忘れていない言葉があります。ある時に受けた嚥下機能検査の結果が思わしくなく、病室で塞ぎこんでいたときでした。その看護師の方は、わざわざ私の病室に来てくれて「佐野さん。佐野さんにとって最悪の選択はリハビリを諦めて止めてしまうことです」「そして最良の選択は諦めずにリハビリを続けることです」。そう言って私を励ます言葉をかけて下さいました。私は今でもこの言葉を忘れずに「あせらず、あきらめず」を motto に毎日のリハビリを続けています。

(投稿日 平成28年8月18日)

「天草病院へたどり着くまで」

春日部市 山崎 好子

57歳でリウマチになり、ひどい時はペットボトルのフタも開けられず、タオルも絞れず、娘たちに助けてもらえばかりで、自分自身の情けなさにガックリきました。

私の入院生活というか病院の歴史です。最初は、貧血で2メートルほどの距離を往復するのも息切れが強く、つらい状態でした。それでも病院へ行く気がなかった私を家族が心配したため病院へ行くとすぐ入院。検査結果は、死ぬ一步手前の数値でびっくりと不安の始まりでした。この時、もし入院していなかったら、今、この天草病院にいなかった私です。2度目は、腰を痛めての入院でコルセットをつけての生活。3度目は肺炎で入院、食べ物も水も飲みこめず、喉はからからで、唇はかさかさで大変でした。そんな時に眼もだんだん悪くなり、見えない状態になり、身の回りのことが何一つできない状態で退院。その後、介護老人保健施設に入所。何も見えないので周りの人との会話もできず、食事は手探りで何もできない自分は大仏のように座っているだけ。耳も聞こえなくなった時は、眼も見えない、音もない世界で何もできない真っ暗な世界、でもそれでも生きていけないといけない、生きています。やがて耳が聞こえるようになり、手術で眼も見え、世の中が明るく見えるようになりました。見えることでいろいろなことが出来るようになり、当たり前のことが当たり前になるようになり、施設での生活も楽しく1年10ヶ月間過ごしました。家に帰って8ヶ月ごろにコードの配線に足をとられ転倒し、骨折。秀和総合病院に50日間入院。そして天草病院を紹介されました。天草病院というと3年ぐらい前に入院し

ていた同室の患者さんが行きたいと言っていたのを思い出しました。現実に関自分がお世話になり、毎日のリハビリをして頂き、その時になぜ天草病院に行きたいと言っていたのか患者さんの気持ちが分かりました。リハビリは決して楽ではありません。痛いところをリハビリしてもらい手伝ってもらい歩けるようになり、そして今、自分の足で自分自身で歩けるようにこの状態までにして頂いた天草病院は最高です。ここに来られたこと、そしてスタッフの人に会えて「ありがとう」と言いたい。私がいろいろな病気をして眼が見えない、耳が聞こえない、食べられない、歩けないことは辛いことです。今はそれができます。このことに感謝です。ここまで支えてくれた家族に感謝し、病気・怪我をリハビリで改善して下さった先生方に感謝します。依然として、できないこともあますが、出来ないことを考えるのではなく、まずは出来るのだということを考えて、毎日をこれからずっと頑張っていきます。生きていってすばらしいですよ。 (投稿日 平成28年11月25日)

感謝の声 (投書箱より)

天草病院に入ってから第一印象は「清潔な病院！」と皆さんの明るいあいさつが気持ちよかった。入院生活では毎日休みのない3時間のマンツーマンリハビリにも患者一人一人に対応したプログラムに本当に一生懸命取り組んで下さる療法士の皆様、看護師さん、たくさんの職員さんの姿勢には感謝です。不安を抱える患者にとって温かい声掛け、傾聴がやる気につながり、リハビリに励むことが出来ました。ありがとうございました。

(C病棟 患者様ご家族より)

訪問歯科のご利用について

リハビリテーション天草病院 事務次長 大塚尚行

当院歯科では、体が不自由で歩行困難な方、寝たきりの方、介護施設に入所中の方など、一人で通院が困難な方を対象に、歯科医師や歯科衛生士がご自宅・施設にお伺いする「訪問歯科」を実施しております。

一般的な治療（虫歯・歯周病治療、義歯の作製・修理・調整、歯石や歯垢の除去など）のほか、脳卒中の後遺症として多く認められる摂食機能障害を有する方に「口腔リハビリ」を提供しています。

食事を楽しく美味しくとることは、生活の質の向上に結びつきます。また口腔内の清潔維持は虫歯や歯周病、口臭を防ぐだけでなく、肺炎防止にも大きな役割を果たしますので、お気軽にご相談ください。

◆ 訪問歯科お申し込みの流れ ◆

お申し込みは簡単です。電話またはFAXをご利用ください。

TEL 048-974-1801

FAX 048-970-1373

※電話の場合：月～金 9:30～17:30

第2・4土 9:30～12:30

※FAXの場合：24時間申し込み可

（FAXの場合、書式は自由ですが、患者さんの氏名、住所、連絡先電話番号を必ず記入してください。担当者が受け取り後、当院歯科よりご連絡致します。）

お申込みいただきましたら、病状等についてお尋ねし、ご希望に合わせて訪問日時を調整の上、治療を始めていきます。

土曜日の外来診察中止のお知らせ

当院では開設以来40年にわたり紹介患者さんが入院主体の医療機関では数少ない土曜日外来診察を行って参りましたが、職員の有給休暇取得率の向上を図らなければならないなど諸般の事情により平成29年2月4日より、これを中止することに致しました。

これまで受診いただいております患者さんには、受診曜日の変更など大変ご迷惑をお掛けすることとなり心苦しく存じます。

なお、土曜日以外に受診することが困難な慢性疾患（高血圧症、糖尿病、脂質

異常症、パーキンソン病など）の患者さんにつきましては、他の医療機関を「紹介状」を添えてご紹介させていただきます。但し「紹介状」は市立病院や大学病院などの土曜日外来休診、あるいは、かかりつけ医機能を持たない医療機関には国の既定方針によりご紹介致しかねますので、ご承知おきの程よろしくお願い致します。「紹介状」は、お申し出の翌週以降にはお渡しできます。ご不明な点がございましたら、電話または総合受付までお問い合わせください。

TEL 048-974-1171

地域包括支援センターからの報告

越谷市地域包括支援センターシルバーケア敬愛 鈴木蝶子

地域包括支援センターは、平成18年の介護保険法の改正で高齢者の総合相談の拠点として設置されました。平成27年度の改正では、団塊の世代が75歳に到達する平成37年(2025年)の、①高齢者ケアのニーズの増大、②単独世帯の増大、③認知症を有する者の増加を想定し、医療、介護、予防、住まい、生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築に向けたサービス提供体制の見直しが行われました。

越谷市では、高齢者等の生活を支えている関係機関の方々との顔の見える関係づくり、見守りを主な目的として「地域包括支援ネットワーク会議」を開催してきましたが、平成27年度の改正により、地域包括ケアシステムの構築実現のための一つの手法として位置づけられました。この会議は、困難事例等の“ケース検討”と地域で取り組むべき地区レベルの“ネットワーク会議”で構成されています。ケース検討は2か月に1回、ネットワーク会議は年2回開催し地域課題の把握に努めています。

2025年には高齢者の4～5人に一人が認知症になるだろうと言われています。認知症になると生活に様々な支障をきたし、認知症の人は困った人として敬遠され、地域とのかかわりが疎遠になっている現状があります。

越谷市では、平成19年度から、認知症を正しく理解し、偏見を持たず、温かく見守る応援者として、『認知症サポーター養成講座』を開催してきました。自治会や小中学生、在

勤在住の方等を対象に、平成32年度までにサポーター3万人を目指しております。地域包括支援センターは出前講座も行っておりますので、今後もお気軽に声をかけてください。今年度末には、新たに認知症やその家族に、早期診断・早期対応を支援する取り組みが行われます。

介護予防の取り組みとしては、越谷市は、『介護予防・日常生活支援総合事業』を開始しました。要支援1・2の方が利用している介護予防・訪問介護(ホームヘルプサービス)と介護予防通所介護(デイサービス)は、介護予防・日常生活総合事業の訪問型サービス、通所型サービスとなりました。今後も、介護予防の新しい事業が展開される予定です。

地域包括支援センターの総合相談業務で一番多いのは、ご本人ご家族、医療機関等からの要介護認定の申請とサービス利用の相談です。要介護認定の代行申請を行い、申請と同時にサービスが必要とされる場合には、速やかに対応できるようにケアマネジャーや地域の方々やサービス事業者と連携を密にしております。

越谷市地域包括支援センターシルバーケア敬愛は、桜井地区センター・公民館に移設し平成29年3月1日より、桜井地区センター内で業務を開始する予定です。地域の方々に、より身近に気軽に相談できる窓口として、今後とも周知活動に努め、安心した生活が送れるよう支援してまいります。

編 集 手 帳

＊今年のお正月も病院から富士山の勇姿を眺めることができました。富士山を目の前になると私達に「大きく伸びよ」と呼びかけているように感じます。巻頭言にも書きましたが私共は「大きく伸びよ」に是非とも応えたいと思います。皆様と共に「昨年よりは前に進みたい」と強く念じる次第ですが、日本国の有り様を大きく左右する要因の一つである世界情勢の行方は極めて不透明です。

＊トランプ・アメリカ次期大統領やプーチン・ロシア大統領の世界政策、イギリスのEU離脱、中東における内戦、世界中に広がるテロ事件、難民問題、中国の「覇権主義」の台頭、北朝鮮の核問題等々、一体、この世はどうなるのか不安に満ちています。それにしても、今のところ日本は平和を満喫していますが、「日本一国主義」、「日本だけが安寧であれば良い」とする考えでは、今後も平和が保たれることは絶対にあり得ません。「平和、平和、戦争反対」と念仏を唱えていても、世界の動きへの対応を間違えると私達が奈落の底に落ち込むことは確実です。常に、「世界の中の日本」を意識しなくてはならない激動の時代に突入したと思います。今ほど日本の政治に関

心を持たなくてはならない時はないと感じます。どの政党に政権を任せるかは選挙で決まります。対案を持たない「批判のみの政党」への投票は危険極まりありません。航図なき航海を任せることになるのですから。

＊私事になり恐縮ですが、昨年秋の叙勲で、はからずも旭日雙光章の栄に浴しました。身に余る光栄と感激しております。これもひとえに、日頃から私や当法人を支えてくださっている多くの方々による暖かいご指導・ご支援の賜物と心から厚く御礼を申し上げます。昨年11月11日に皇居に参内し、豊明殿において天皇陛下から拝謁の榮譽を受けると共に心温まるお言葉を賜り、感激の極みでございました。実は、私は十数年前にも、当時は小



泉純一郎内閣でしたが、藍綬褒章を受章しておりますので皇居での陛下への拝謁は今回で2回目となりました。これを機に命ある限り研鑽を重ね世のために頑張り抜く覚悟です。(理事長天草大陸)

表紙のことば

「幸せって何だろう？」と考えて、考えてみたら今の仕事を続けて普通に生きることに辿り着きました。

花(プリザーブドフラワー)を創ることが私の仕事なのです。想像の世界で夢を描いて形を創り完成させます。

苦勞も有りますが自分の世界に入り、喜びも味わう事が出来ます。

生涯、現役でいたいので片手が効かなくても、片足が不自由でも人には幸せがいっぱいある事を実感しています。

そしていつも感謝の心を忘れない様にとっています。

古河 睦子